

月刊しばうら

2025年1月号

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

旧年中は格別のご厚情にあざかり

心より御礼申し上げます

本年もなお一層のお引き立てを賜りますよう

お願い申し上げます

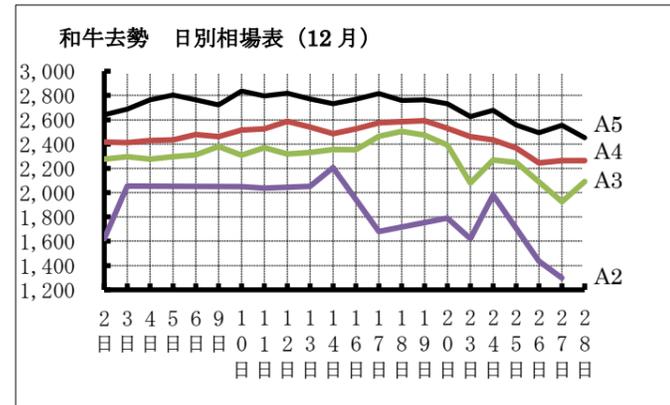
令和七年元旦

牛肉営業部

<12月の相場動向>

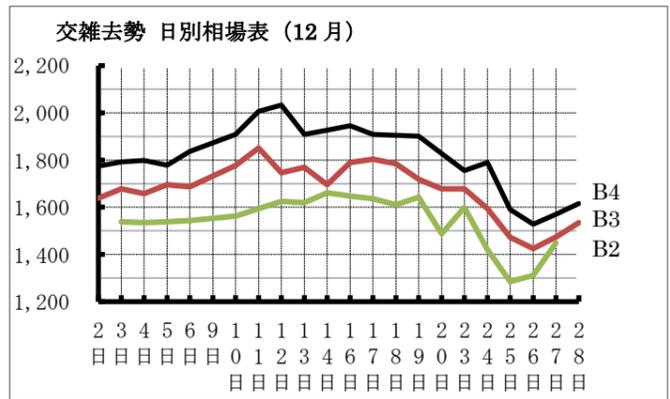
12月は牛肉の最需要期で、前月相場を上回るのは例年通りではあったが、和牛は5等級以外において前年同月を上回り、交雑は全等級において上回る結果となった。交雑は昨年1年を通じて高値で推移していたことから、年末商戦による更なる高騰を危惧し、年間を通して低調な相場推移していた和牛にシフトしたものと考えられる。

また、11月の相場が例年より10日ほど早くから上昇していったため、和牛相場の下落を見込んでいた業者が買う機会を逃し、12月中旬を過ぎても数量を確保できずにいたため、結果的に月末まで高値相場となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,735円	-34円	98.8%	+86円	103.2%
A4	2,474円	+20円	100.8%	+97円	104.1%
A3	2,324円	+179円	108.3%	+135円	106.2%
A2	1,874円	+120円	106.8%	+61円	103.4%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,788円	+20円	101.1%	+56円	103.2%
B3	1,663円	+5円	100.3%	+74円	104.7%
B2	1,519円	+38円	102.6%	+51円	103.5%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	-	-	-	-
B2	1,343円	+554円	170.2%	+190円	116.5%

<1月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、11月の輸入量は前年同月比3.6%増の3万4,619tで、うちチルドは同5.6%減の1万3,658t、フローズンは同10.6%増の2万962tとなった。

農畜産業振興機構によると12月の牛肉輸入数量は前年同月比2.7%減の3万5,100t(チルド2.1%減・冷凍3.1%減)で、1月は17.9%減の3万5,500t(チルド15.6%減・冷凍19.3%減)と予測している。1月はチルド・フローズン共に主要輸入先の北米産輸入量減少が見込まれることから、前年同月を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,856	6,692	117.3%
	米国	4,653	6,607	70.4%
	その他	1,149	1,166	98.5%
	合計	13,658	14,465	94.4%
フローズン	豪州	9,041	8,078	111.9%
	米国	7,388	6,326	116.7%
	その他	4,533	4,550	99.6%
	合計	20,962	18,954	110.5%

出典：食肉速報

単位：t

<1月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による1月の出荷予測頭数は、全体で前年比97.0%の8万3,200頭で、品種別では和牛が5.6%減の3万7,100頭、交雑種は8.9%増の2万1,800頭、乳用種は6.3%減の2万3,600頭と予測している。

東京食肉市場の1月のと畜予定総頭数は6,960頭を予定しています。

<1月の牛枝肉相場見通し>

年末年始の量販店の販売動向は高価格帯の動きは鈍かったものの、全体の売れ行きは軒並み好調で、休市期間も長かったことから、月前半は問屋の在庫補充買いによる底堅い相場展開になると考えられる。

月末にかけては例年、成人の日を過ぎたあたりに相場が一旦落ち着く傾向にあること、年末年始の出費による反動で需要が鈍ること、再び節約志向が強まることなどが予想されるため、牛肉需要は低迷していくとみられる。

牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,650	B4	1,600~1,750
A4	2,200~2,350	B3	1,450~1,600
A3	1,900~2,200	B2	1,300~1,450
A2	1,750~1,900		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,200		
B2	1,000~1,100		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は、140万9,881頭(前年同月比4.9%減)と前年を下回った。一方で11月の豚肉通関数量は7万8,283t(同4.5%増)と前年を上回り、前月比では9.8%の減少となった。内訳はチルドが3万466t(前月比14.7%減)、フローズンは4万7,838t(同22.1%増)の増加となった。

2023 - 2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
比	95%	105%	106%	106%	95%	102%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

11月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,025	86.5%	デンマーク	3,643	91.7%
カナダ	15,644	88.2%	スペイン	12,624	100.2%
メキシコ	2,775	68.8%	メキシコ	4,987	83.3%
			アメリカ	4,950	166.1%
			カナダ	4,790	141.4%
合計	30,446	85.3%		47,838	122.1%

単位：t

<12月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	67,200	634	631	884
3日	69,100	682	657	941
4日	67,700	678	647	916
5日	69,400	673	649	778
6日	67,700	664	646	1,115
9日	69,900	672	642	902
10日	71,000	689	656	1,079
平均	68,857/日			945/日

12月に入り寒さが本格的となり、忘年会やイベントも増えて外食向けの引き合いが強まったことや、鍋物需要の増加や輸入ポークの供給が入船遅れ等の影響で不安定だったことから、国産豚肉の需要は底堅く、相場は強気配で推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	70,300	667	641	927
12日	71,300	653	637	825
13日	70,500	640	600	1,185
16日	67,100	660	643	777
17日	72,700	694	678	963
18日	73,400	715	704	803
19日	73,700	676	655	911
平均	71,286/日			913/日

全国と畜頭数は7万頭台で推移した。年末年始に向けた仕入れがピークを迎え、相場は18日には上物が700円台にまで上昇した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	73,200	661	639	1,161
21日	—	651	630	814
23日	77,100	642	623	1,099
24日	79,200	628	585	1,048
25日	76,400	545	500	1,013
26日	72,300	505	488	838
27日	46,500	496	485	1,055
28日	—	488	471	621
平均	70,783/日			956/日

昨年の12月は例年と比較して、年末相場としては早めの高値展開となったが、クリスマス伊ブを境に相場は急落した。27日には500円を割り、最終日の28日は上場頭数621頭と少なかったが488円まで下落した。

<1月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和7年1月の肉豚出荷予測では141万4,000頭(前年同月比100%)と予測している。東京食肉市場の1月集荷予定せり頭数は1万9,000頭、1日あたりでは約1,000頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万6,900t(同106.8%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,700t(同94.4%)、冷凍輸入量は4万4,200t(同118.2%)と予測。

冷蔵品輸入量は、為替や現地相場高の影響等により低調に推移する中、主要輸入先の米国産輸入量の減少が見込まれることから、前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は価格優位性からブラジル産の輸入量増加が見込まれること等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

1月は例年、年末年始の出費による反動から需要が鈍る時期となる。学校給食の再開によって需要が中部位からスソ物の動きへシフトするとみられる。また、昨年の相場高の影響により中間流通では凍結球を確保できず在庫がタイトな状況となっており、相場の下支え要因になることが予想される。

供給面では、気温は全国的に平年並みか高くなると予報されており、肉豚の生育にとって良好な状況で、出荷頭数は比較的安定するとみられる。下旬にかけて寒波や疾病など増体に影響を及ぼす要因が発生しなければ、三連休以降に相場は軟調な展開となりそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は530円前後、中物平均価格500円前後の展開と予測する。

